

会員数 59名 出席者44名・欠席者12名・免除会員4名
欠席者 麻田・林・池田・和泉享・倉田・増田・
松山・森・中西・中野昌・山田・善勝-会員
前々回出席率 75.92%(1/14)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 大西 和彦
幹 事 齋賀 護
会報委員長 曾川 泰廣

お知らせ

- ∴ 1月のプログラム
12 (No.1)-合同新年例会
14 (No.2)-役員委員長半年報告
21 (No.3)-客話
28 (No.4)-客話

- ∴ 他RC例会変更
丸亀東 1/12 合同新年例会
普通寺 1/6 新年夜間例会
1/27 職場例会
観音寺 1/14 夜間例会
観音寺東1/12→1/14夜間例会

∴ ニコニコBOX;なし

<ニコニコ会計累積/¥300,000>

- ∴ がんばるBOX;
出席できなくて
中川君
早退します
大山君 高岡君

<がんばる会計累積/¥215,500>

■会長挨拶

先週は小野正人琴平町長に金丸座の歴史とこんぴら歌舞伎の裏話を面白く聴かせていただきました。また「琴平の謂れ」は象頭山は木々が生き茂っており風が吹くと琴の音色がしたとのこと、また頂上が屋島のように平らであったため琴平と名づけられた説があるとお話でした。観光は「点」ではなく、「面」としての観光が大切だと話されていました。丸亀も協力し面の観光をしたいものです。

「琴」と言えば、琴奨菊が日本人として10年ぶりに優勝しました。琴奨菊の「琴」は琴平ではなくて、観音寺の琴弾八幡宮の「琴」です。戦前大相撲で活躍した小結の琴錦は観音寺市出身で、現役引退後は佐渡ヶ嶽部屋を興し、琴ヶ濱、琴櫻を育てています。佐渡ヶ嶽部屋は弟子に琴の字が多く琴奨菊、丸亀で生まれた琴勇輝も佐渡ヶ嶽部屋です。

さて今日は「丸亀の文化財保護」「ニッカリ青江」のお話があります。のちほどよろしくお願いします。

■幹事報告

- ①香川さくらの会から桜の剪定等の実演講習会のご案内があります

■例会事業;客話:丸亀市教育部総務課資料館長 関野真樹さん
日本美術刀剣協会四国讃岐支部 川辺勝一さん

関野真樹様

丸亀市合併10周年記念で昨年10月10日～11月29日まで京極家の家宝展で日本刀ニッカリ青江と二尊旗を展示しました。人気ゲーム刀剣乱舞onlineとのコラボレーション企画でオープニング開会式には全国から2659人もの来館があり、のべ開催期間中45日では資料館始まって以来の最高入館者数で2万412人もの方に来ていただきました。その際ニッカリ青江の解説をボランティアでしていただいたのが川辺さんです。



川辺勝一様

私が刀に興味を持ったのは警察官だった18歳のときに教官に日本刀を持たされたのがきっかけでした。以来50数年となります。

日本刀の見方は、まず姿を見て時代を知ります。飛鳥奈良時代は聖徳太子が四天王寺に納めた丙子椒林剣(へいししょうりんけん)や七星剣(しちせいけん)のように大陸からの影響で直刀でした。日本鉄が使われ反りがついた刀は平安時代に考案され、鎌倉時代に完成します。南北朝時代は皮の鎧を切る為に大きく厚みは薄いカミソリのような刀になり、室町時代は素早い動きが求められ片手打ちと呼ばれる片手で扱える寸の詰まったものができます。このように姿を見ることで時代がわかります。



(裏へ続く)

2016.1.28

Vol.53

No.29

(2598)

次に地肌を見ることで、作られた国、流派を知ることができます。鋼をどう折り返して鍛錬したかによって地肌に模様が出ます。鍛錬の仕方は流派によって違うので見分けることができます。板目肌や杓目肌のように鋼の肌に樹木のような文様がみられます。

次は刃紋です。波紋では刀匠が判断できます。鋼の焼き入れの際鋼鉄と軟鉄の境が波紋となります。刀匠は比較的意図した模様を作ることができ個性がでます。最後は切先で極める、確信すると言われていました。

では、ニッカリ青江ですが、作られたのは南北朝時代の身幅の広い姿(当時は2尺5寸)で、備中(岡山、倉敷辺り)の青江派(青江貞次)の作です。地肌は杓目肌まじりの板目肌、大切先です。言い伝えでは、夜ニッカリ笑いながら近づく女の妖怪を退治したら、翌朝石灯籠が真っ二つに切れていたと言われていました。豊臣秀吉が所有していた時に、磨上げを埋忠寿齋に依頼し、短く2尺(60cm)の扱いやすいものにしました。その後大阪冬の陣の際、常高院初(浅井初、京極高次の正室)の働きにより徳川家康との和睦が成立した功績を称えられ豊臣秀頼より京極高忠に褒美としていただきました。以来京極家の秘蔵とされ、3mm区を短く磨かれ1尺9寸9分の小さ刀として江戸城で帯刀し愛用していました。太平洋戦争時行方不明となりましたが、平成9年新井議員の仲介で丸亀市が5990万円で買い戻しました。

■次週例会プログラム ; IM報告